5千957人となっています。

また、平成17年調査での稲作農業従事者数は876戸、近年の米価の下落または従事者の減少により、平成24年は730戸と減少しています。

Q　本年11月27日に農林水産大臣宛てに米価の下落に関する要望書を提出したと聞いているが、その内容はどうか。

A　経済環境部長　米価下落に対する全国の米価の実態調査し、把握することで、深刻な事態に対する緊急対策を実施すること、備蓄米の買い上げを実施すること、備蓄古米を飼料米、または食料不足で苦しむ諸国に支援米として送ること、以上の3点が要望の概要です。

おいしいお米作りに努める農家

Q　農林水産省による米価下落対策の特例措置があると聞いているが、その内容はどうか。

A　経済環境部長　米・畑作物の収入減少影響緩和対策、通称、ナラシ対策がございます。一定の要件を満たす農業者を対象として、収入減少による農業経営の影響を緩和するため、米、麦、大豆等の当年産の販売収入の合計額が標準的収入を下回った場合に、その差額の9割を補填します。

Q　厳しい状況下にある稲作農家に対しての今後の取り組みについて、市の考えはどうか。

A　市長　稲作農家は、今年の米価が大変低いということで、厳しい状況と承知していますが、市単独の施策はなかなかとりにくいので、要望させて頂きましたように、国・県の打ち出す施策について、その動向を注視していくことから始めたいと思います。

個人質問

林　善和 議員

Q　今の市の財政状況を鑑（かんが）みて、少なくとも現在の危機的状況を乗り越え、ある程度安定するまでの期間、市の単独補助事業等の利用の拡大を要望したいが、市長の見解はどうか。

A　市長　市としての財政状況を鑑（かんが）みた場合に、大きな施策をとるということは大変難しい状況にありますが、十分に検討させていただかなければならない問題だと思っています。

◆市民税、国保税について

Q　市の税金が少し高いという声もあるが、近隣市との税率比較はどうか。

A　市長　個人の市民税は、均等割は市が3千500円、県が1千500円であり、所得割は、市が6％、県が4％で、標準税率を使っており、県内の市町村は一律で、本市が特に高いということはありません。

A　市民部長　国民健康保険税は、市町村ごとにまちまちです。予測される医療費から、国・県等の補助金と被保険者が医療機関の窓口で支払う一部負担金を差し引いた金額を、負担頂くものです。市では、医療保険分の所得割額は7・46％、均等割額は2万5千600円、平等割額は2万9千600円で、同様に後期高齢者支援分と介護納付金の組み合わせで1世帯の国保税が決まります。

市税と違い、各市町村間で税率や算定方式も違います。国保税は目的税ですので、市の場合、約20億円を被保険者に負担いただいており、全体の所得が下がれば、税率を上げなければ、必要な財源を確保できません。

市は24年度に税率を山武郡市6市町の平均値に改定し、その後に郡内の市町では改定を行っており、26年度は2番目に低い税率となっています。

近隣市との比較ですが、東金市や大網白里市よりも若干低いですが、八街市や富里市よりも高い状況です。

Q　過去の滞納はどうか。

A　市民部長　市民税に係る収入未済額は、ここ2年間は減少しております。平成25年度の徴収率は、現年課税分の特別徴収率は99・9％と良好ですが、普通徴収は86％弱です。滞納繰越分の徴収率は15・7％ですが、収納率も上がってきており、納税環境の改善に取り組んでいます。

国民健康保険税の収入未済額は、年々増加しておりましたが、24年度からは市民税と同様、2年連続減少となりました。

分納誓約を交わして分割納付を行ったり、滞納処分の差し押さえや交付要求を行った結果、債権の保全がなされ、時効の中断したものなど、20年以上前の債権の管理をしているということも、滞納額が多い原因の1つです。

Q　税の徴収努力についてはどうか。

A　市民部長　滞納を減少させるには、徴収を上げる方法と、徴収できない不良債権を整理する方法と、2つあると思います。できるだけ滞納者と接点を持ち、預貯金・保険契約などを充当させてもらうのが基本です。

Q　1年間保険を使用しなかった場合に還付等考え、少し負担を和らげる方向はどうか。

A　市民部長　目的税なので困難であり、また余裕がありません。

◆さんむ医療センターについて

Q　来院数の増減はどうか。

A　保健福祉部長　本年4月から10月までの患者数は前年同月と比較し1万5千842人減少しています。

Q　患者数が減少した原因はどうか。

A　保健福祉部長　減少した理由は特定できませんが、常勤医師が退職したこと、また4月からの増税等により患者様の受診抑制が影響していると思われます。

Q　単に勤務医師の減少ではなく質の高い医師や診療で、変化する